

川本和明先生を送る

井原 健雄

川本和明先生は、平成6(1994)年3月31日をもって、本学部を停年により退官された。先生は、昭和5(1930)年8月に山口県大島郡東和町にお生まれになり、昭和25(1950)年に山口大学工学部に入学、昭和29(1954)年に同大学を卒業され、広島大学大学院理学研究科に進学後、昭和34(1959)年4月に本学部助手として赴任された。爾来、昭和35(1960)年5月講師、昭和37(1962)年6月助教授、昭和44(1969)年7月教授とそれぞれ昇任され、本年3月のご退官まで、実に35年の長きにわたって本学の発展のために尽くしてこられた。

この間、先生は、ご専門の商品学、触媒化学を中心に研究教育に多大な貢献をなし、その含蓄ある論旨明快な講義は、数多くの学生達を大いに魅了してきた。特に、化学研究では、新しい触媒反応の開発を主に手掛けられ、触媒としては、銅などの個体触媒を始め、ルテニウム錯体を用いた均一系の新しい触媒反応を開発した。また、社会科学の研究では、新しい品質表示のあり方に関する研究をはじめ、通信販売に対する商品学的なアプローチによる研究、消費者問題、エネルギー問題、情報化の問題、環境問題など極めて多岐にわたって数多くの研究成果をもたらされた。更に、地域社会が抱える諸問題にも強い関心を示され、多くの提案がなされるなかから、地域社会の活性化に多大の貢献をされた。先生のこのような優れた労作の一部は学位論文として結実するところとなり、昭和36(1961)年には、“Dehydrogenation of Secondary Alcohols with Reduced Copper”と題する論文によって、広島大学から理学博士の学位を取得された。

先生は、また、学内行政の面でも優れた功績を残された。昭和49(1974)年以降、評議員を通算7期にわたって併任されたことに加えて、昭和59(1984)年4月には学生部長を併任され、その重責を2年間にわたって果たされた。更

に、昭和 53 (1978) 年 4 月には、国立学校設置法施行規則 (昭和 39 年、文部省令第 11 号) の一部を改正する規則の施行に基づき、学内共同教育研究施設として設置された「大学教育開放センター」の初代センター長を併任され、その基礎堅めの重要な業務を率先して担当された。その後、昭和 61 (1986) 年 4 月には、再度、同センター長を併任され、つねに地域に貢献する開かれた大学を目指して懸命の努力を傾注された。平成 3 (1991) 年 4 月に改称された現行の「生涯学習教育研究センター」の拡充改組は、これまでの先生のご努力が結実したものととっても過言ではない。また、昭和 55 (1980) 年 4 月からの 2 年間には、商業短期大学部主事 (現商業短期大学部部長) を併任され、昼夜にわたる大学の管理運営に多大の貢献をされた。

一方、学外においても、日本商品学会をはじめ、日本化学会、日本分析学会等に所属され、その学会活動の活性化に大いに寄与され、本学においても学会の開催をお引き受け致すなど、その裏方としての仕事にも大いに精励してこられた。また、先生は、本務に支障のきたさない範囲で、高松工業高等専門学校や高松短期大学等の非常勤講師を引き受けられるとともに、四国地域情報化推進協議会委員をはじめ、大規模小売店舗審議会特別委員等の要職を歴任され、その深い学識と経験を生かして積極的な意見を展開されるなど、地域社会の活性化とその振興のためにも大いに寄与してこられた。

以上のような先生の多大なご功績に報いるために、香川大学では、平成 6 (1994) 年 4 月に名誉教授の称号をお贈りしたところである。

平成 6 年 2 月 7 日に開催された「研究と失敗」と題する先生の最終講義では、成功することよりも失敗することの方が圧倒的に多い、という先生自らの貴重な体験に基づき、失敗を恐れることなく、未知なるものに向かって、積極果敢に挑戦すべきではないか、という励みの言葉を感銘深く拝聴した。

先生には、今後とも、ますますご健康で更なるご活躍を祈念致すとともに、わが経済学部の発展のためにも、どうかよろしくご指導ご教示を賜りますよう心からお願い申し上げる次第である。